進路ガイダンスの話題に！

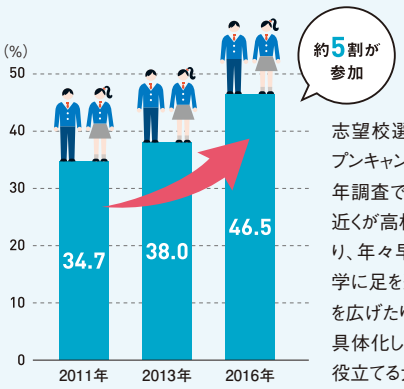
進路環境D

—「今」が見えてく

進学の動向

●オープンキャンパス参加が早期化傾向

［高校1年でのオープンキャンパス参加状況］

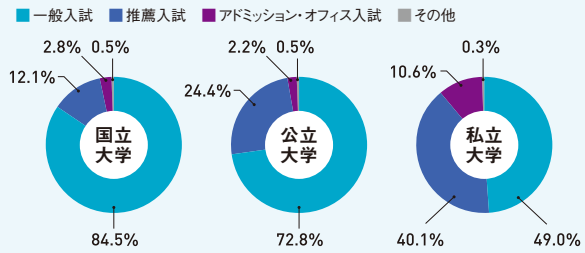


志望校選びに欠かせないオープンキャンパスへの参加。2016年調査では大学進学者の5割近くが高校1年時に参加しており、年々早期化。1年生から大学に足を運ぶことで、選択の幅を広げたり、進学後のイメージを具体化したりして、進路決定に役立てる大切なイベントだ。

リクルート進学総研「進学センサス2016」　※グラフは大学進学者の回答

●私立大では2人に1人が推薦、AO等で入学

［入試方式別に見た大学入学者の割合］

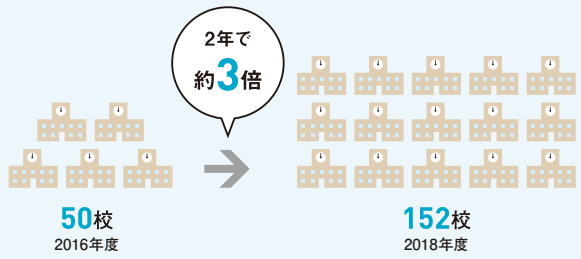


推薦、AO等による入学者の割合は私立で約5割。国立は10%台だが、国立大学協会は定員の3割に増やす目標を立て、各大学が教育改革を推進中。推薦、AOは「学力不問入試」との批判もあるが、文科省は2021年度から一般入試と同様に「学力の3要素」を評価する入試への改革を実施予定だ。

文部科学省「平成28年度国公私立大学入学者選抜実施状況」より集計
※「その他」は専門高校・総合学科卒業生入試、帰国子女入試、中国引揚者等子女入試、社会人入試の合計

●入試に英語外部検定を利用する大学が急増

［一般入試で4技能英語検定を利用する大学数］



グローバル化への対応のため、大学入学者選抜で「読む」「聞く」「書く」「話す」の英語4技能が測定できる英検、TOEFL（R）テストなどの検定利用が増加。スコアを出願資格や書類審査に用いたり、スコアに応じて加点したり、利用方法は各大学で多様。高校時代を通して4技能バランスよく学習を。

旺文社 教育情報センター「30年度入試 英語外部検定利用状況」

●景気や社会の動向で学科トレンドが変化

［大学の学科系統別志願者の増減状況（2013-16年／単独分野）］

増加

順位	学科系統（小分類）名称	増減（人）
1	経済学	+30,691
2	リハビリテーション学	+26,188
3	法学	+24,917
4	建築学	+23,061
5	機械工学	+12,939

減少

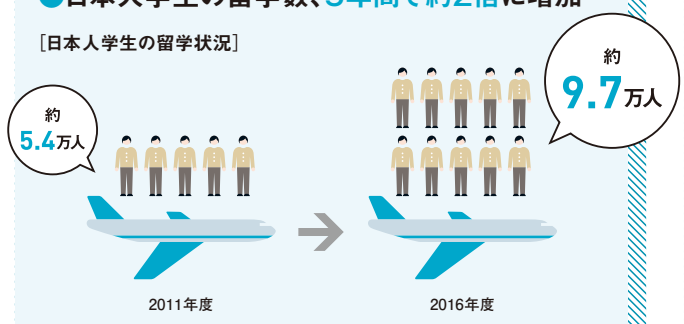
順位	学科系統（小分類）名称	増減（人）
1	医療技術学	-21,873
2	栄養・食物学	-4,807
3	物理学	-4,388
4	保育・児童学	-4,099
5	生物学	-3,881

2013-16年間は景気回復による求人増の影響で、経済学・法学系の志願者増。第4次産業革命への関連が強い工学系や、オリンピック需要に結びつく建築学系も人気上昇。一方、志願者減の系統は、12年までに増加した反動によるものが目立つ。トレンドも把握しつつ、自分に合った選択をしたい。

リクルート進学総研「入試実態調査」各年集計データ分析

●日本人学生の留学数、5年間で約2倍に増加

［日本人学生の留学状況］

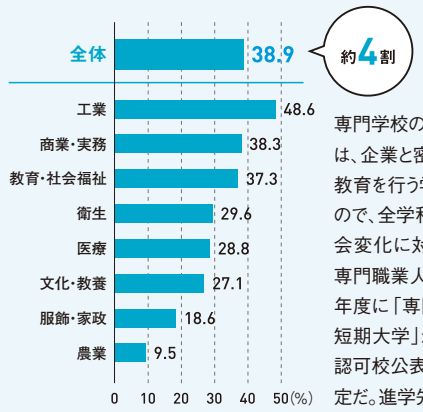


大学生等の留学数は年々増加。真のグローバル人材の育成のため、政府は2020年までに日本人大学生等の留学を年間12万人に増やす目標を設定。「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」の返還不要奨学金や各大学独自の制度など支援体制は充実の方向。費用面で断念せず、チャンスを探そう。

日本学生支援機構「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」（平成23年度・平成28年度）
※協定等に基づく日本人学生留学状況及び協定等に基づかない日本人学生留学状況（在籍大学等把握分）の合計

●専門的な職業を目指す人の学校選びに新たな指標

［「職業実践専門課程」の認定学科の割合］

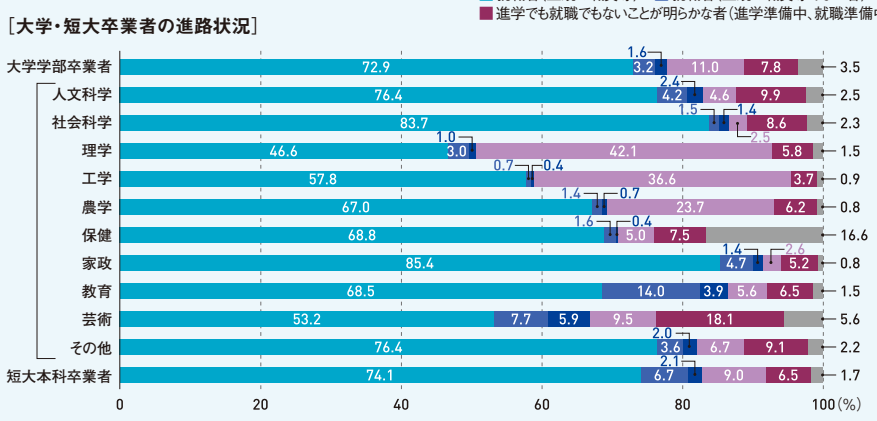


専門学校の職業実践専門課程は、企業と密接に連携して職業教育を行う学科に認定されるもので、全学科の約4割。また、社会変化に対応できる質の高い専門職業人養成のため、2019年度に「専門職大学」「専門職短期大学」が創設される。設置認可校公表は18年夏ごろの予定だ。進学先選びのヒントに。

文部科学省「「職業実践専門課程」の認定状況」（平成30年2月27日現在）

●大卒無業者、いまだ1割弱

［大学・短大卒業者の進路状況］

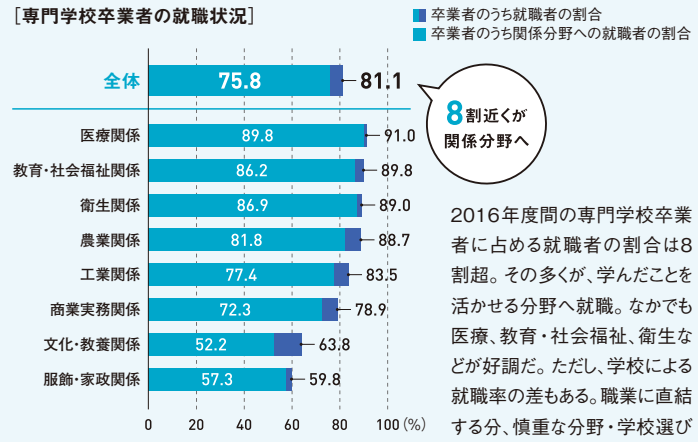


2017年大学卒業者全体に占める就職者の割合は76.1％で前年比微増。大学院等への進学者は全体で11.0％だが、理系学部の比率は高め。進学でも就職でもない（無業）者は、一時期より減少しているものの依然として1割弱存在する。高校時代から大学卒業後を見据え、目的・目標をもって進学することが大切だ。

文部科学省「学校基本調査」（2017年3月卒業者について）※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者（就職しかつ進学した者を含む）
※「正規の職員等でない者」とは、雇用の期間が1年以上の期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が40～30時間の者
※グラフでは「臨床研修医（予定者を含む）」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

●実践的に学ぶ専門学校の高い就職率

［専門学校卒業者の就職状況］



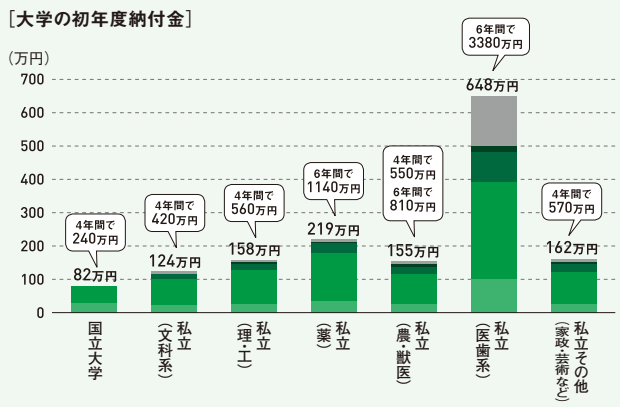
2016年度間の専門学校卒業者に占める就職者の割合は8割超。その多くが、学んだことを活かせる分野へ就職。なかでも医療、教育・社会福祉、衛生などが好調だ。ただし、学校による就職率の差もある。職業に直結する分、慎重な分野・学校選びが大切だ。

文部科学省「学校基本調査」（2016年度間）

進学費用の動向

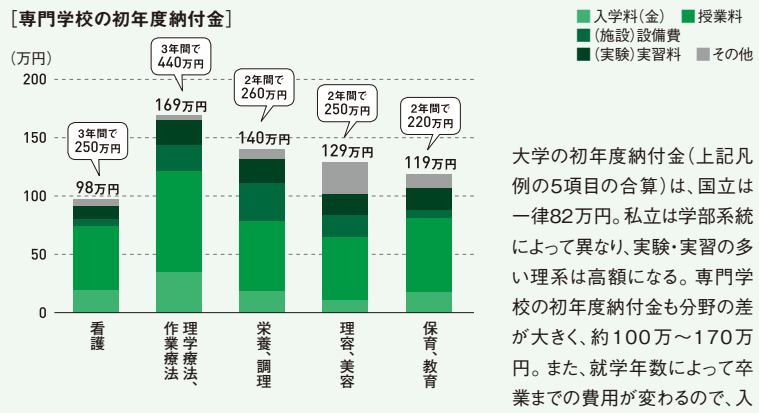
●初年度納付金は約100万円～。分野によって大きな差

［大学の初年度納付金］



文部科学省「平成28年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）」（昼間部）
※国立大学は標準額　※1万円未満は四捨五入　※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

［専門学校の初年度納付金］



東京都専修学校各種学校協会「平成29年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程（専門学校）平均（昼間部）より抜粋
※1万円未満を四捨五入　※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

大学の初年度納付金（上記凡例の5項目の合算）は、国立は一律82万円。私立は学部系統によって異なり、実験・実習の多い理系は高額になる。専門学校の初年度納付金も分野の差が大きく、約100万～170万円。また、就学年数によって卒業までの費用が変わるので、入学前に総額の見通しを立てておくことが大切だ。